鹿児島県立鶴丸高等学校広報紙

第１２２号　Ｈ２９．１２．１５

好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴信

鹿児島県立鶴丸高等学校
〒890-8502　鹿児島市薬師二丁目１番１号
TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

12・1月の行事予定

12　月			食堂
16	㊏	悠学講座⑦	×
17	㊐		×
18	月	学年朝会	○
19	火		○
20	水		○
21	木		○
22	金	大掃除　センター試験激励会 7限カット　40分授業	○
23	㊏	天皇誕生日	×
24	㊐		×
25	月	冬季悠学講座	○
26	火	冬季悠学講座	○
27	水	冬季悠学講座	○
28	木	冬季悠学講座	○
29	金	3年センタープレ	×
30	㊏	3年センタープレ	×
31	㊐		×

1　月			食堂
1	㊊	元日	×
2	火		×
3	水		×
4	木	3年センタープレ	×
5	金	3年センタープレ	×
6	㊏	3年センタープレ	×
7	㊐	3年センタープレ	×
8	㊊	成人の日	×
9	火	**授業開始日**　全校朝会 45分授業	○
10	水	**1・2年実力考査(1日目)** **3年月曜の授業**	○
11	木	**1・2年実力考査(2日目)**	○
12	金		○
13	㊏	**センター試験(1日目)** 悠学講座⑧	×
14	㊐	**センター試験(2日目)**	×

冬季休業日

新任の英語科ALTとして７月に着任された，Chesley Cade Mason先生に寄稿していただきました。

Into the Unknown

In many ways, Japan has been and continues to be a mystery to me. But it's a wonderful mystery—like a puzzle with many, many difficult and different-shaped pieces; a great unknown. And like so many unknowns, this one has been, in many ways, scary. Terrifying, even. At many points in my journey, I wondered if I was doing the right thing by coming here. After all, I didn't know the language, or really anything at all about the country I was moving to. I questioned myself often as I tried my best to learn and adapt to this new culture, one so very different from my own. And through every up and down along the way, I have discovered something about myself that was not known to me before: I can do anything, if I really want to.

I can meet amazing people from different parts of this great world, even without sharing the same language. I can create deep connections and friendships with these people through simple kindness. I can travel with confidence and experience the beautiful cultures of every country I visit. Japan has taught me this.

Before graduating college this past year, I knew that I wanted to travel. I wanted to try new things and discover. I have always been fascinated with Japan's culture; it is rich in history, and it is beautiful. This, I suppose, was the reason I chose this country over others. Even though I had never studied the language, I knew it was where I wanted to spend time growing. And I have grown so much in just the 4 months since landing in Tokyo. I do not feel like the same person since leaving America—and this is a good thing. It is a great thing.

Sometimes, I think it is necessary to let go of certain parts of ourselves in order to grow—the parts that make us uncomfortable. If you are shy, for example, and you wish to be more outgoing, then going to more and more social events will make you more comfortable to speak. I never liked public speaking in high school or college, but I have had to give many speeches here in Japan, and now I am no longer as afraid to do so. This, I think, is growth—it's replacing the old parts with the new.

And that is how my journey has been so far: I have pushed myself to do the things that make me most uncomfortable. In doing this, I have become more comfortable with myself. I have become more confident.

I'll say it again: Push yourself. You never know what you might accomplish until you try.
By pushing myself, I have found opportunities I never would have had before. And for that, I am thankful. So, thank you, Japan. And thank you Kagoshima, and Tsurumaru, for being so welcoming. From the bottom of my heart, arigatou gozaimasu.

長生きしたいと願いながら…

生徒指導課主任　永迫昌毅

長生きしたいと願いながら、自分の命を縮める行為をする…。まあ、人間は矛盾した生き物なのでないとは言わないが、普通に考えたら、そんなおろかな事をする人間はめったにいないだろう。

平成二十九年八月末に、神戸製鋼アルミ製部材などのデータ改ざん問題が発覚した。国内外の多数の企業が問題の部材を使用しており、国際的な問題に広がりつつある。「神戸製鋼以外のメーカーの部材にしてほしい。」不正発覚後、材料の卸売会社には、材料調達先の切り替えを求める声が相次いでいるという。米司法省が「召喚状」を送付していることも分かり、今後、刑事責任を追及され、罰金や賠償金などを求められる可能性もある。何より大きいのは、「モノづくり日本」の信用失墜…。高品質を武器に世界を席巻した日本ブランドそのものが傷を負い、その影響は計り知れない。しかも、この手のニュースは世の中に氾濫している。東洋ゴムの免震ゴム偽装問題や、最近では日産を始めとした大手自動車メーカーの検査員不正問題、三菱マテリアルの子会社による製品検査データ改ざん問題も発覚した。ずいぶん前の話であるが、雪印食品牛肉偽装問題もあった。輸入牛肉を「国産」と書いた箱に詰め、次々と販売していた問題で、これは連日のトップニュースとなり、名門企業と言われた雪印食品は経営が急速に悪化し、内部告発から3カ月後に解散してしまう。

人間は本質的にはどのような行動をするのか。何かの問題が起こるたびに考えてみる。自分自身に置き換えてみると、私はやはり自分が一番かわいいし、自分が損をすることはしたくない。「誰かのため…」とはいっても、それはその行為が自分の喜びでもあるからであり、私の中に「完全なる利他的思考」は存在しない。やはり人間の本質は「利己的」なのだと私は思う。前述の様々な改ざん・偽装問題も、それぞれの事情の違いはあろうが、結局は他人の迷惑を考えず、「その場しのぎの自分の利益」を求める思考が、この問題を生んだのだろう。しかし、その結果、自分の信用は失墜し、自分自身を滅ぼすことにもなった。まさに、長生きしたいと願いながら、自分の命を縮める行為をしたようなものだ。

しばらく前に、高速道路を走るトラックからスペアタイヤが落下し、２人が亡くなる痛ましい事故があった。このニュースに対するネット上の書き込みに、こんな文章を見つけた。

「昔勤めていた会社の車両部の人は、毎朝きちんとトラックの日常点検をして作業後は水洗いしながら異常がないか確認していた。

出入りの業者の運転手さんからは真面目すぎると笑われ、他部署の人からは作業効率が悪いと言われたけど、これも仕事のうちだからと言っていた。

ずっと無事故。世の中、こういう人ばっかりなら、悲しい事故は起きないのに。」

そう、「正直で真面目」であることは、自分と自分の周りの人を守る大切な武器なのである。

躍動する鶴丸生
～部活動生の活躍

三年生の引退後、各部ではバトンを引き継いだ一・二年生が主体となって活動をスタートさせています。九月から十一月にかけて行われた新人大会やコンクール・コンテストでは、多くの部・生徒達が入賞を果たしました。それぞれの舞台ではばたく若鶴たちに、応援をよろしくお願いします。

〔空手道部〕
平成二十九年度鹿児島市高等学校空手道競技大会
○男子団体組手　優勝
○男子団体形　優勝
・金谷　隼亜　・湯口　幸輝
・藤田　雄司　・松元　優心
第五十二回鹿児島県高等学校空手道新人大会
○女子団体形　第４位（九州新人大会　出場）
・出羽　優凪　・城間　結香　・相良　麻里杏
〔弓道部〕
平成二十九年度鹿児島市高等学校弓道競技大会
○女子団体　優勝
・井澤　綾那　・小河　茅央　・増田　琉香子
・篠倉　菜緒　・大久保　朱音

〔ラグビー部〕
平成二十九年度国民体育大会
○第三十七回九州ブロック大会　女子ラグビーフットボール競技　第２位
・堀之内　優夢（鹿児島県代表）
〔山岳部〕
平成二十九年度国民体育大会
○山岳競技　少年男子（リード・ボルダリング）
第八回全国高等学校選抜クライミング選手権大会
・川畑　イサム
第四十三回鹿児島県高等学校新人登山競技大会
○男子団体　第１位
・折田　龍哉　・中澤　佑哉
・東　恭平　・新留　悠斗
○女子団体　第２位
・東　美帆　・永松　采花
・西田　梨乃　・吉本　芽唯
〔吹奏楽部・音楽部〕
第四十一回鹿児島県高等学校音楽コンクール
○ピアノ部門　金賞
・鮫島　彩音　・上大田　咲良　・鮫島　直弥
・渕脇　真子　・今給黎　百合花
○木管楽器部門　金賞
・恒吉　夏樹
〔書道部〕
第五十五回南日本七夕書道展
○県書道会賞　・山元　桂（三年）
○県高校書道教育研究会賞　・永山　真央
第四十八回鹿児島県高等学校書道展
○準大賞　・伊集院　凜
○高文連賞　・永山　真央
〔美術部〕
第六十八回鹿児島県高校美術展
○秀作賞　・栗山　恭一（九州大会出場）
・若松　南月
第六十八回鹿児島県高校美術展
○奨励賞　・萩原　竣太郎
〔写真部〕
第二十四回鹿児島県高等学校写真展
○写真専門部賞　・若松　南月（九州大会出場）
〔文芸部〕
第十七回鹿児島県高校生文芸コンクール
○短歌部門　優秀賞
・粟田　海琴（三年）
・寺田　悠乃（九州大会出場）
〔囲碁部〕
第二十一回鹿児島県高文連囲碁大会（兼第四十二回全国高文祭囲碁部門代表決定大会）
○男子個人　優勝（九州大会出場）
・窪田　弘一郎
〔ＥＳＳ部〕
第二十回鹿児島県英語ディベートコンテスト
優勝（鶴丸Ａ）（全国大会出場）
・沼田　文来　・松元　美緒　・新田　笑花
・坂元　千帆　・枦場　詩央
〔化学部〕
第二十四回鹿児島県高等学校生徒理科研究発表大会
○化学部門　最優秀賞（九州大会出場）
・下村　優斗　・迫田　昂希　・有川　実利
・村田　和隆　・四角目　尚生
〔百人一首部〕
第一回全九州高等学校総合文化祭鹿児島県予選
○小倉百人一首かるた部門　優勝（九州大会出場）
・塚田　秋葉　・有薗　一光　・飯山　花梨
・宮田　茉奈　・谷口　朝咲　・速見　雅史
・中仮屋　桜介　・尾辻　菜々子